

市内高校における 18 歳有権者の投票行動に関する アンケート結果について

牧之原市選挙管理委員会では、選挙権年齢の引下げに伴い新有権者となった 18 歳の投票行動についての把握と分析を行うことにより、今後の 18 歳・19 歳の有権者に対する効果的な啓発活動を展開する上での参考とするため、市内の県立相良高等学校及び県立榛原高等学校(全日制・定時制)の協力を頂き、アンケート調査を行いました。

両校合わせて 109 人の生徒から協力を頂いたので、その結果をお知らせします。

※ 2 校限定の調査のため、投票率の公表は控えさせていただきます。

なお、牧之原市の 18 歳投票率は 44.42%でした。(7/22 に県選管が発表した、県内の 43 市区町ごとに 1 投票所を抽出して実施した調査結果の数字は、「牧之原市：46.00%」、「県内：48.62%」となっています)

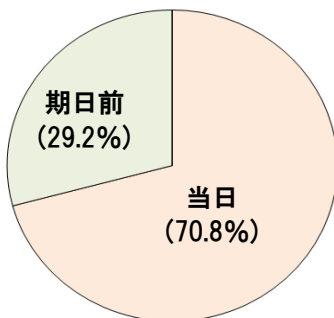
- | | |
|---------|---|
| 【調査の対象】 | 牧之原市在住に限らず、第 24 回参議院議員通常選挙の新有権者となった 18 歳以上の全ての生徒 (H28.7.11 以前に生まれた生徒) |
| 【調査の方法】 | 対象となる生徒へのアンケート用紙の配布及び回収を高校へ依頼。
(回答後の用紙は、同時に配布した封筒に封入した形で提出)
用紙・封筒共に、氏名記載欄はなし。回収率は約 85%であった。 |
| 【調査の期間】 | 平成 28 年 7 月 14 日～7 月 22 日 |
| 【調査の内容】 | 投票に行った生徒には 3 つの設問を用意。投票に行かなかった生徒には、その理由を自由記載でお願いした。 |

◆設問 A 今回の選挙で、投票した方にお聞きします。

「投票した生徒数」
の公表は控えさせていただきます

設問(1) 投票には、いつ行きましたか？

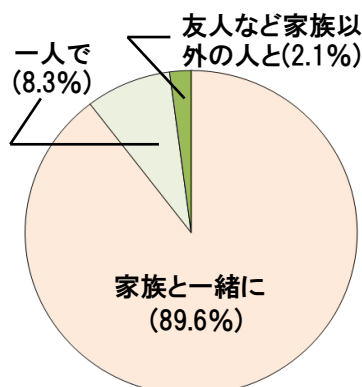
1 選挙当日 (7/10) 2 選挙期日前 (6/23～7/9)



- ・当日投票に行った生徒は 70.8%、期日前投票に行った生徒は 29.2%であった。
- ・全投票者に占める期日前投票者の割合は、全国で約 27.5%、牧之原市で約 31.0% (共に選挙区。在外投票を除く) であることから、高校生についてもほぼ同様の結果となった。

設問(2) 投票にはどなたと一緒に行きましたか？

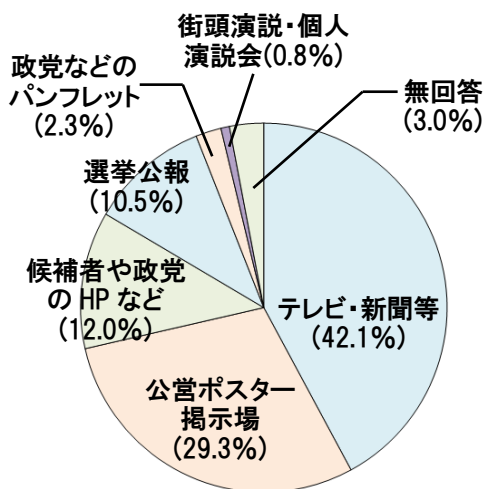
1 一人で行った 2 家族と一緒にいった 3 友人など家族以外の人と一緒にいった



- ・「家族と一緒に」が 89.6%と、約 9 割を占めた。「一人で行った」は 8.3%、「家族以外と」は 2.1%であった。
- ・高校生の政治参加の動機づけに、家庭が大きな役割を担っていることが伺える。また、全体の投票率が前回よりもアップした要因として、子どもと一緒にいくことにより親の投票率が上がった、ということも考えられるのではないかな。

設問（３） 候補者や政党の情報は、何から得ましたか
（複数選択可能です。当てはまるものを○で囲んでください）

- 1 公営ポスター掲示場 2 選挙公報 3 テレビ・新聞等
- 4 政党などのパンフレット 5 街頭演説・個人演説会
- 6 候補者や政党のHPなど（フェイスブック・ツイッターなどを含む）

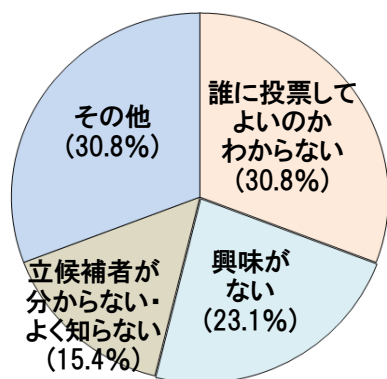


・複数回答ではあるが、テレビ・新聞等のメディアが 42.1%と最も多く、公営ポスター掲示場が 29.3%、候補者や政党のHPなどが 12.0%、選挙公報が 10.5%と続いた。

・HPなどインターネットを利用して情報を収集する割合よりも、（例えば通学の途中に目に入ってくる）公営ポスター掲示場からの情報の割合が高いことは、高校生の特徴の一つといえるのではないだろうか。

◆設問Ｂ 今回の選挙で、投票しなかった方にお聞きします。
よろしければ、投票しなかった（できなかった）理由を教えてください。

例）：部活動、学業（塾、予備校や公開模試など）、買い物、旅行、冠婚葬祭など
（又は）誰に投票してよいかわからなかった、興味がなかった、など



・「部活動」や「学業」などの理由が多いのかと思われたが、それらの理由は皆無であった。

・「誰に投票してよいかわからない」が 30.8%で最も多く、「興味がない」が 23.1%、「立候補者が分らない・よく知らない」が 15.4%となった。

・その他としては、時間がなかった、気付いたときには終わっていた、買い物、特に理由なし、などの記載があった。

【まとめ】

- 期日前投票については、両校にはポスターやチラシの掲出など啓発活動に御協力を頂き、非常に感謝している。本市在住の生徒にとっては、榛原及び相良庁舎の２箇所の期日前投票所が、高校の敷地に隣接（又は非常に近い場所に立地）しており利用しやすい環境にあるため、今後も啓発に力を入れていく。
- 期日前投票に行った生徒は「一人で」が 18%、「家族と」が 82%だったのに対し、当日投票に行った生徒は「一人で」が 4%、「家族と」が 93%であることから、生徒の投票行動に対して家庭が果たす役割の大きさが伺える。
- ポスター掲示場から情報を得た割合（約 3 割）に対し、選挙公報から情報を得た割合は 1 割程度であった。ポスターだけでは、候補者や政党について詳しい情報を得ることには限界があり、候補者や政党の政策などを知る上で最も重要なアイテムである選挙公報をいかに読んでもらうかが、今後の課題と考える。